

20世紀初頭、パリに集った画家のグループ「エコール・ド・パリ」の寵児藤田嗣治と、同時期にパリで創作に打ち込んだ松戸市ゆかりの画家、板倉鼎・須美子夫妻。3人の作品を集めた企画展をきっかけに、藤田と鼎の子孫が松戸市内の会場で初めて対面、「お久しぶり」と笑顔で手を差し出した。(林容史)

妻。3人の作品を集めた企画展をきっかけに、藤田と鼎の子孫が松戸市内の会場で初めて対面、「お久しぶり」と笑顔で手を差し出した。(林容史)

## 松戸の企画展縁 パリの交流に思い

初対面を果たしたのは藤田のめい、長男藤田嗣隆さん(67)と東京都新宿区と鼎のめい神崎眞子さん(67)松戸市。板倉鼎・須美子夫妻の自筆を伝える会長の水谷嘉弘さん(65)が先月、偶然に嗣隆さんが都立高校の先輩と知り、二人を引き合わせた。

嗣隆さんは、神崎さんと並んで作品を鑑賞し「あの時代、多彩な画家がよくぞ集まった。板倉夫妻の絵は色がきれいで、オリジナリテイがある。若くして亡くなった分、凝縮されたものが噴出したのだろう」と件時を語った。

聖徳大学・同短期大学と松戸市・同市教育委員会の共催で「フジタとイタクラ エコール・ド・パリの画家、藤田嗣治と板倉鼎・須美子」が同大の聖徳博物館で十六日まで開かれている。大学が所蔵する藤田の油彩画七点、同市教委などが所蔵する板倉夫妻の油彩画十点が展示されている。

# 面影見つけ「お久しぶり」

## 藤田嗣治と板倉夫妻子孫が初対面



同ほど会場に足を運んだという。今回、出品されている須美子の女一は、通っていた市立中部

企画展の会場で初の対面を果たした藤田嗣隆さんと神崎眞子さん(松戸市)

**藤田嗣治**(1886~1968年) 東京美術学校(現・東京芸術大学美術学部)を卒業後、1913(大正2)年に渡仏。裸婦に代表される女性の「乳白色の肌」の美しさや猫を描いた作品が脚光を浴びた。  
**板倉鼎**(1901~29年) 県立千葉中学校を卒業後、東京美術学校入学。藤田の15年後輩に当たる。妻の須美子(1908~34年)と共に1926(大正15)~29(昭和4)年にパリに留学した。松戸市は20代で世を去った夫妻の画業の再評価を進めている。

一九二九年四月、藤田を中心にしてパリの日本人画家たちが結集した「仏蘭西日本美術家協会」の第一回展に板倉夫妻も参加。独特な魅力を放つ須美子の作品を藤田が絶賛したこと、鼎が松戸の家族に宛てて書き送っている。二七年には、帰国する画家仲間の送別会で撮影した写真に藤田と鼎が写っている。

「久しぶりに伯父の絵が見られた」と喜ぶ。「みんなが懐かしいな」と思っていて見せてくれた。神崎さんが嗣隆さんに「ブル」のネクタイがすてき。横領が藤田由伯にそっくり」と声を掛けると、嗣隆さんも「昔から知っていたみたい」と笑顔で応じていた。



### 県内の天気

	きよつ	あす
千葉		
銚子		
木更津		

### きょうの子想

(千葉)  
 降水確率  
 朝10% 昼10% 晩0%  
 気温  
 最高18度 最低10度  
 南西の風はやや強く

千葉支局  
 〒280-0003  
 千葉市中央区

中央3-4-8  
 コーポスビル4F  
 電話 043-224-8155  
 FAX 043-225-2271  
 mail@hibi@tokyo-np.co.jp  
 船橋 047-424-6381  
 市川 047-334-4151  
 松戸 047-344-0117  
 柏 04-7184-0357  
 成田 0475-23-0365  
 銚子 043-224-8155  
 木更津 0439-26-6501